

【事例報告】

地域に交流をもたらす「コミュニティカフェ」の試み —コミュニティカフェ@east wings「こねくと」における実践の記録—

古賀 弥生

要約

大学周辺地域における実践的な学修機会として、地域づくり学科2年次演習でコミュニティカフェの運営に取り組んだ。福岡市東区千早にある大学施設を会場として、多くの地域関係者に協力をいただき6日間、土日限定の試みを行った。コミュニティカフェでは飲み物の提供に限らず、学生と来場者、来場者同士の交流に力点を置いたイベントや、来場者を対象としたヒアリング調査も実施した。その結果、当該地域において子どもをはじめとするさまざまな年齢層の住民の交流や活動の場がないという課題を顕在化させた。また、学生の教育効果としては、社会人基礎力の能力要素である「主体性」「傾聴力」などに働きかけた。

Keyword : コミュニティカフェ, 異世代交流, 企画

1. はじめに

本稿は、令和元年11～12月に九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部コミュニティギャラリーeast wings¹（以下、east wings）で実施した、期間限定のコミュニティカフェ「こねくと」の実践記録である。

平成30年度に開設された地域共創学部地域づくり学科2年次開講の「地域実践演習Ⅰ・Ⅱ」において、大学周辺の地域における課題を探りその解決に資する学修の機会として、また、地域づくりを掲げる新学科が実際の地域に関わりその運営に貢献する機会を探ることも目的とした試みであった。

コミュニティカフェ運営の経緯を記録に残すことで、地域との連携による地域づくり人材育成のあり方、大学による地域づくり活動への貢献のあり方に関する資料として活用されることを期待するものである。

以下、コミュニティカフェ運営に関する取り組みの流れ（前期、後期）、コミュニティカフェ来場者を対象に行ったアンケート調査結果、課題と展望を述べていく。

2. 前期（令和元年4月～7月）の取り組み

4月、「地域実践演習Ⅰ」の受講学生18名が集まった初回授業で、まずは事業のための実行

¹ 福岡市東区千早5-14-30 みゆき通りの「みゆきビル」2階に平成16年9月開設。大学における教育・研究活動の成果を生かして、地域社会との交流・連携を深める場として運営された。令和2年3月閉館。

委員会を立ち上げた。実行委員会は任意団体であり、規約と役員名簿を必要とする。規約は一般的な市民活動団体の規約のひな型を参考として案を作成し、役員は会長を指導教員が担い、副会長（2名）、会計（1名）、監事（1名）を学生から募って、演習内での「設立総会」で全員の了承を得た。

具体的な活動としては、まず「コミュニティカフェとは何か」を探求するところから開始した。参考文献として長寿社会文化協会編『コミュニティ・カフェをつくろう！』（学陽書房、2011年発行〔第4刷〕）を分担して読み演習内で発表することで、全国の事例やカフェの立ち上げ方を学修した。

並行して福岡市内のコミュニティカフェまたはコミュニティスペースとして運営されている場の視察も行った。グループに分かれて以下の3か所を視察し、コミュニティカフェの運営やそこに関わる人々の思いなどについてヒアリングを行った。視察の際は、先方への訪問依頼、日程調整等も学生が担当した。（表1）

さらに、コミュニティカフェの会場となるeast wingsが立地する千早校区、香椎校区についてどんな地域課題があるのか、公民館や自治協議会の関係者へのヒアリングを学生が分担して行った。この場合も関係者への連絡、ヒアリングの依頼と日程調整等は学生が担当した。ヒアリング内容は、演習内で情報共有し、キーワードをKJ法でまとめるなどした。その結果、両校区とも比較的若い層、子育て層が多いにも関わらず、地域活動の運営の担い手は高齢化が進み、若い層が地域活動に参加しない傾向があることが課題として浮かび上がった。

そこで、企画するコミュニティカフェのテーマを「異世代交流」と定め、地域活動の担い手の育成・支援につながる活動を行っていくこととした。

次に取り組んだのが、活動に必要な資金の調達のため「東区いきいきまちづくり提案事業」補助金（以下、補助金）の採択を受けることであった。この事業は、「市民主体のまちづくり活動への支援として、地域の課題解決や魅力づくりに向け、自ら発意・企画し、自主的に取り組む団体から事業提案を募集し、寄与すると認められた団体に事業実施にかかる経費の一部を補助金として交付」（福岡市東区HPより引用）する制度である。一次審査は書類審査、二次審査は東区役所でのプレゼンテーションによって行われる。補助金制度に応募することで、活動資金を得るだけでなく、学生が公共的な活動を行う責任を自覚でき、申請書の作成やプレゼン

表1 福岡市内コミュニティカフェに関する視察先

名称	所在地	特徴
福岡わくわくプロジェクト しかたの茶の間 M'sコミュニティ	福岡市早良区高取 福岡市早良区四箇田団地 福岡市西区姪浜	子育てママを応援する場 高齢者と地域をつなぐ場 西南学院大学と商店街のコラボ

テーションの準備をする過程で、活動の目的、見込まれる成果などを言語化することが可能になり学びの機会として重要であると考えたものである。二次審査のために学生が作成したパワーポイントの内容を図1に掲載する。

審査結果は、いったん「保留」となったものの、条件として提示された「自治協議会や公民館に相談し、地域で活動している世代の異なる2団体（子育てサークルや高齢者サークル等）」以上と協力して事業を実施すること」をクリアすることで採択されることとなった。

ここまでの活動について指導教員があらかじめ行った準備は以下のとおりである。

- ①前期の演習が始まるまでに福岡市内のコミュニティカフェ等に足を運び、運営担当者の話を聞いたうえで学生の視察・ヒアリング先としてふさわしいか否かを検討。選定した視察先関係者に、学生による調査への協力依頼を行う。
- ②同じく演習開始前に香椎・千早両校区の公民館や地域団体関係者に対し、学生による調査への協力を依頼しておく。
- ③補助金については、あらかじめ制度内容やこれまでの採択事業に関する研究を進めておく。

前期の後半は、east wingsで行うコミュニティカフェについて上述の視察先の様子も参考にしながら具体的な企画を立てる活動を行った。「店舗班」（店の内装や飲み物の提供に関することを担当）、「イベント班」（集客と地域づくりにつながるイベントの企画運営を担当）、「広報班」（カフェの実施やイベントに関するPRを担当）の3班に分かれ、仕事を分担・連携しな



図1 東区いきいきまちづくり提案事業補助金 二次審査のプレゼンテーション資料

がら進めていった。

ここでの指導教員の役割は、各班リーダーと連携しながら、後期のコミュニティカフェ実施に向けてのスケジュール管理、各班業務へのアドバイス、班内のコミュニケーションに対する気配り等であった。特にイベント班については、「異世代交流」をテーマとし地域活動の担い手育成につながる活動を3件企画するよう課題を与えていたが、自分たちと世代の異なる地域住民が参加する催しを企画することは困難であるように見受けられた。スケジュール上ギリギリのタイミングまで待ったうえで、学生による企画を1件のみに絞って取り組ませることとし、2件は指導教員がメインで企画と準備を進めることとした。

【前期の活動】

実行委員会立上げ→コミュニティカフェ調査・地域課題調査（4～5月）

「東区いきいきまちづくり提案事業」補助金への応募（5月。審査は6月）

→east wingsでのコミュニティカフェ企画（6～7月）

3. 後期（令和元年9月～2年1月）の取り組み

後期が始まる9月中旬以前の夏休み期間中、指導教員は、キャンパスに近い香椎校区の地域団体や商店街の関係者の方々にアドバイスや協力を仰ぐため、各種団体の会合に参加する、代表者を訪問するなどの活動を行った。特に、補助金申請に対して付された保留解除条件である「地域で活動している世代の異なる2団体以上と協力して事業を実施すること」をクリアするため、各地域団体への協力依頼を行った。しかしながら、この活動を担当する教員や学生との関係があらかじめ構築されているわけではない地域団体へ、年度の途中から事業を共に行うよう要請することは甚だ困難なことであり、場合によってはその後の大学と地域との関係を悪化させることも考えられる。そのため、大学の学外連携課にも協力を要請し、指導教員の個人的なネットワークも活用した協力依頼を行った。

その過程でアドバイスや協力を仰いだのは、以下の団体等である。

- 香椎校区青少年育成連合会
- 香椎校区子ども会育成連合会
- 香椎校区ねりんクラブ連合会
- 香椎商工連盟
- みゆき通り商店街
- 香椎公民館
- 千早公民館

そのほか、香椎・千早両校区の自治協議会会長・役員の方々、町内会長の方々等に多大なるご協力をいただいた。

また、イベント企画の実施に際しては、香椎参道の「木の雑貨のお店 Baum」に木のおも

ちやを借用し、福岡市住宅都市局香椎振興整備事務所からは香椎地区の地図データ、古い写真等を提供していただいている。

9月後半、後期「地域実践演習Ⅱ」の授業が始まると前期に学んだコミュニティカフェの事例や地域調査をもとに、実際の地域団体関係者の意見を踏まえてeast wingsでのコミュニティカフェの実施内容を固めていった。店舗班、イベント班、広報班の3班による検討を総合し10月に固めたコミュニティカフェの企画書を以下に掲載する。

そして、この企画書にもとづき、店舗のレイアウトや飾りつけ、イベントの準備を進め、広報は対象者に応じたチラシの作成と配布活動を行った。その過程で、今回のコミュニティカフェは「人と人とのつながり」を意味する「こねくと」という名称にすることが決まった。

チラシの配布は、香椎・千早両校区内の公共施設、保育園、幼稚園、小学校、学童保育教室、子育てクラブ、ねんりんクラブ等にご協力をいただいた。

11月、いよいよコミュニティカフェの運営とイベント実施の本番を迎えた。18人の実行委員会メンバーが6日間の運営日のうち約2.5日、各日6人程度ずつ「出勤」するシフトを組んで運営にあたることとした。通常のカフェでは、飲み物などの注文を受け商品を渡すと、店員はお客様から離れるものだが、今回のコミュニティカフェ「こねくと」では、「異世代交流」をテーマとして地域活動の担い手づくりにつながる場とするため、学生スタッフが積極的にお客様に声をかけ、地域に関するお話をうかがうように心がけた。合わせて、地域に関するヒアリング調査も実施しており、その結果は次章に掲載する。

コミュニティカフェ@east wings「こねくと」 企画書

1. 概要

香椎・千早校区の地域課題のひとつである「異世代交流の不足」を解決するため、east wingsにおいて期間限定のコミュニティカフェを運営する。

2. 目的

学生と子育て層、高齢者などさまざまな住民をつなぐ場を創出することを目指す。今年度は、活動のキックオフとしてカフェでの交流、世代を超えて楽しめるイベント実施や各世代に応じた広報活動を行い、その成果から次年度以降の取り組みにつなげていく。

3. 事業内容

- (1) 日時：11/16（土）17（日）23（土・祝）24（日）30（土）12/1（日）10：00～17：00
- (2) 場所：九州産業大学コミュニティーギャラリーeast wings
- (3) 実施形態：コミュニティカフェの運営。コーヒー等の飲み物を提供し、地域住民と当団体メンバーである学生がおしゃべりを楽しみながら交流する。同時に、さまざまな世代の人が一緒に参加できるイベントも実施。

<イベント企画 案>

- ①11/16 (土) 大学生と遊ぼう！
(トランプ、人生ゲームなどを店内に備え、訪れた子どもや大人と大学生、あるいはお客様同士が遊ぶ)
- ②11/17 (日) 理想の街の絵を描こう *詳細別紙
- ③11/23 (土) 大学生と遊ぼう！+木のおもちゃで遊ぼう！ 協力：木の雑貨Baum (香椎参道)
- ④11/24 (日) 大学生と遊ぼう！+木のおもちゃで遊ぼう！ 協力：木の雑貨Baum (香椎参道)
- ⑤11/30 (土) 木藤亮太講演会&ワークショップ「応援の連鎖がまちを変える」 *詳細別紙
- ⑥12/1 (日) クリスマスリースづくり *詳細別紙

【別紙】 イベントの詳細

②理想の街の絵を描こう

- 日時：2019年11月17日 (日) 14:00~16:30 (途中休憩あり) ・少雨決行
- 対象：小学校高学年~最大15人
- 内容：香椎公民館を起点として香椎校区内を散策する (歩ける範囲で)
 - カフェに到着。感想をシェアする
 - 理想の街の絵を描いてもらう
 - 描いたものをシェアする ※カフェは同時並行で営業。

⑤木藤亮太氏講演会&意見交換会「応援の連鎖がまちを変える」

- 日時：2019年11月30日 (土) 14:00~16:00
- 対象：みゆき通り商店街・香椎商工連盟会員の商店主の方々ほか地域の方々 (15名程度)
九州産業大学地域共創学部地域づくり学科学生 (5名程度)
- 内容：宮崎県日南市「油津商店街」再生のキーパーソンとして知られる木藤氏の講演と、east wings 周辺のまちづくりに関する意見交換会。 ※カフェは午前中のみ営業。

⑥クリスマスリースづくり

- 日時：2019年12月1日 (日) <1回目> 13:00~14:00 <2回目> 15:00~16:00 (予定)
- 対象：<年齢> 幼稚園年長以上~上限なし (ただし年長~小3までは保護者同伴)
<人数> 10組 (1組：3人まで) ※各回5組
- 参加費：(1組) 200円 ※材料費
- 内容：クリスマスリースを作りながら異世代交流を行う事を目的としたイベント。親子連れを中心に、その他の組み合わせでも申込可能 (友達同士など)。リースは完成後、家に持ち帰っていただく。
- 申し込み：メールで11/10 (日) 10:00から受付。先着順。 ※カフェは同時並行で営業。

コミュニティカフェ@east wings「こねくと」の実施概要

- ・開催日数 令和元年11/16 (土) 17 (日) 23 (土・祝) 24 (日) 30 (土) 12/1 (日) の6日間
- ・会場 九州産業大学コミュニティーギャラリーeast wings
(東区千早5丁目14-30みゆき通り商店街「みゆきビル」2階)
- ・来場者数 165人 (うちイベント参加者数43人 [11/17「理想の街の絵を描こう」11人,
11/30「木藤亮太氏講演会&意見交換会」23人, 12/1「クリスマスリースづくり」9人])
- ・飲み物売上 11,100円 (お茶, コーヒー, ジュース等 @100円×111杯)
- ・ヒアリング調査件数 68件 (香椎・千早校区34件, 他地域34件)

コミュニティカフェ「こねくと」の運営を終了した12～1月は、ヒアリング調査の結果をまとめ、活動の振り返りと次年度に向けた課題の抽出などを行い、報告書作成と「東区いきいきまちづくり提案事業」の報告業務を行い、今年度の活動を終了した。

【後期の活動】

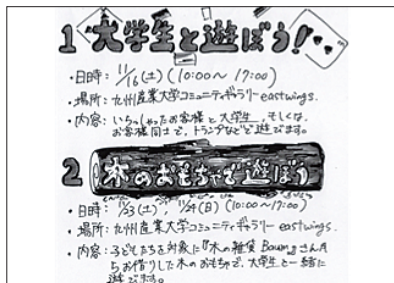
地域団体の方からアドバイスを受け協力を依頼（8月～）

→企画案のとりまとめ（9、10月）→広報、運営準備（10月）～

→コミュニティカフェ「こねくと」運営本番（11～12月）

→（終了後）ヒアリング調査のまとめ・振り返り・報告書作成など

《広報用に作成したチラシの例》



《コミュニティカフェの様子》



11/17（日）「理想の街の絵を描こう」



11/30 (土)「木藤亮太氏講演会&意見交換会」



12/1 (日)「クリスマスリースづくり」



4. 来場者ヒアリング調査結果

コミュニティカフェの成果や今後の可能性を探るため、来場者にはヒアリング調査を行った。その内容と結果は以下のとおりである。

4.1. 調査概要

調査期間：11/16 (土) 17 (日) 23 (土・祝) 24 (日) 30 (土) 12/1 (日) の6日間

調査場所：east wings (東区千早5丁目14-30「みゆきビル」2階)

調査方法：学生による個別ヒアリングまたは調査対象者本人による記入

有効回答数：68件 (参考：延べ来場者数165人)

4.2. 回答者の属性等

4.2.1. 来場者全体

来場者の居住地、年齢(年代)、性別、コミュニティカフェに関する情報源、コミュニティ

カフェが楽しかったかどうか、異世代交流ができたかどうかを尋ねた。

来場者の居住地は会場のeast wings近隣地域「香椎校区」「千早校区」がそれぞれ27%、21%と多く、その周辺地域の「香椎下原・香椎東」を入れると52%と半数を超す来場者が近隣から訪れていることがわかる。(図2)

次に来場者の年齢(世代)については、最も多かったのが30代で22%、次いで10代20%、40代18%、50代17%と続く。比較的若い層が多かった理由は、「木のおもちゃと遊ぼう」「大学生と遊ぼう」など、小さな子どもを対象としたイベントを行っている場として認識し来場された子育て層がいたこと、10代に関しては学生の企画運営であることから大学生の来場が多かったことなどが挙げられる。一方、香椎校区ねんりんクラブ連合会や香椎・千早両校区の公民館が広報にご協力くださったものの高齢者層の来場が多くなかったことについては、一般参加が可能なイベントが子どもや子育て層を対象としたものであったことや会場が階段を上らなければならない2階にあることなどの影響が推測される。(図3)

性別では男性58%と、やや男性のほうが多くなっている。(図4)

次にコミュニティカフェについてどこで知ったか(情報源)については最も多かったのは担当教員の古賀からで42%、次いで「知人から」32%、「チラシを見て」15%などであった。

知人のうち多く名前が挙がったのは地域団体の方で、地域団体、地域のキーパーソンの協力によって集客できたことがわかる。

ほかにも商店街関係者や東区職員の名前が挙がっていた。

チラシの入手先については保育園、子どもプラザ、公民館、学童、町内などが挙げられた。また、「その他」はフェイスブック、看

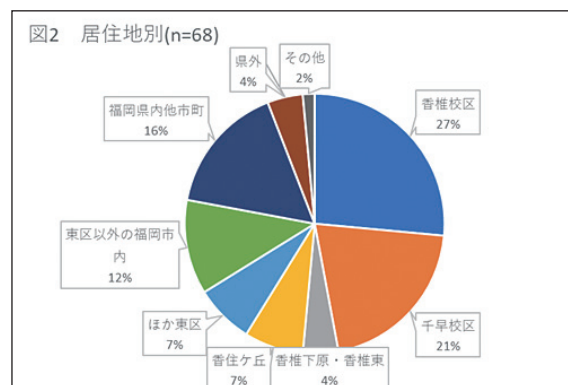


図2

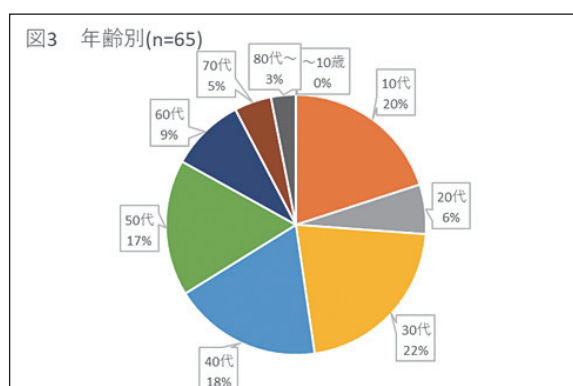


図3

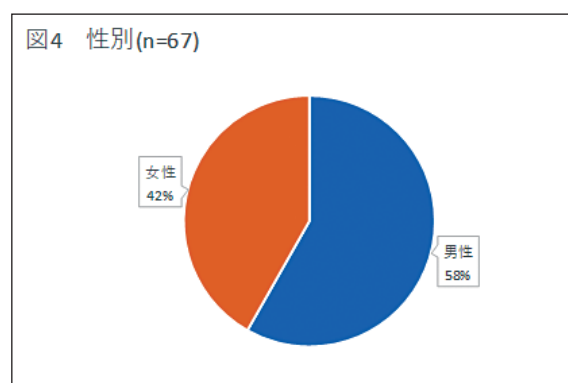


図4

板（階段下に設置）が含まれている。（図5）

「コミュニティカフェは楽しかったですか？」という問いには「あまり楽しくなかった」「楽しくなかった」という回答はなく、回答者全員が楽しかったと答えている。（図6）

この活動のテーマであった「異世代交流」については、「よく交流できた」「ある程度交流できた」を合わせると92%と、ほとんどの方が交流できたと回答している。ちなみに「あまり交流できなかつた」「まったく交流できなかつた」と回答したのは学生であった。学生同士で来場し、スタッフの学生とのみ交流したためと思われる。（図7）

4.2.2. 香椎・千早校区

次に、会場の周辺であり今回の活動の主な対象とした香椎・千早校区からの来場者に絞って傾向を分析する。

まず年齢層については、30代と40代が共に27%と最も多くなっている。一方で地域活動の担い手として活動していると思われる60代以上も24%を占めている。他地域からの来場者（学生や、コミュニティカフェの活動、大学の活動に関心を持って来場）を含まない地域住民に絞ると、子育て層の来場が多かったことがわかる。調査対象は原則として大人であったため、小学生、幼児などはグラフに含まれていないが、多くの子どもの来場者がありリピーターになった子もいたことを付記する。（図8）

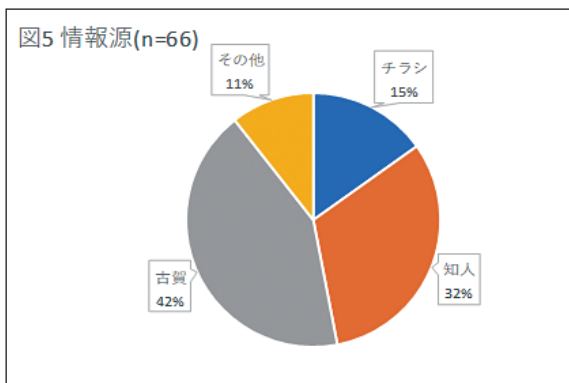


図 5

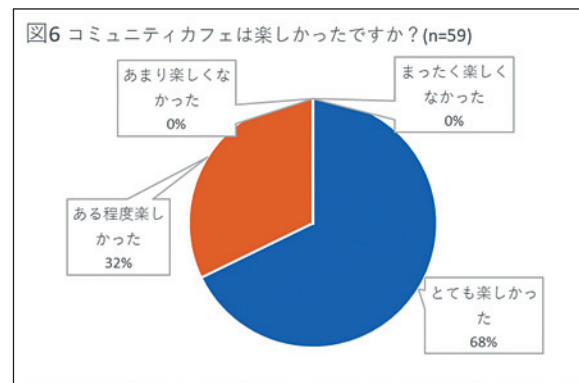


図 6

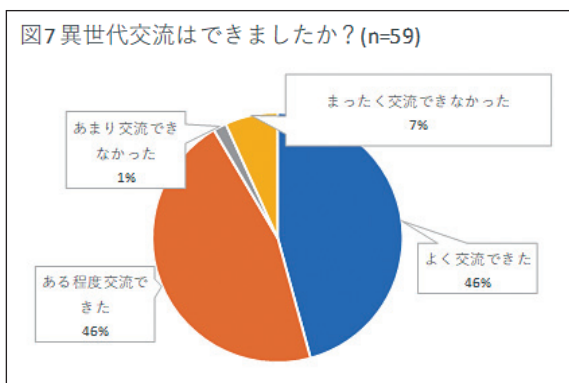


図 7

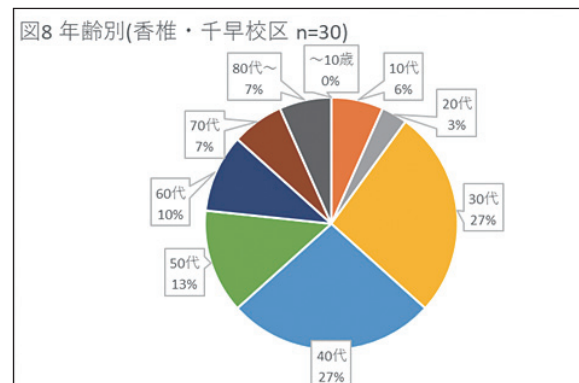


図 8

性別は男性・女性が共に50%であった。(図9)

情報源については、知人が44%と多数を占め、地域のつながりから情報が伝わったことが推測される。(図10)

「コミュニティカフェは楽しかったですか?」という問いでは「とても楽しかった」が73%で、来場者全体の68%と比較して満足度が高くなっている。(図11)

異世代交流ができたかどうかについても、「よく交流できた」が50%と来場者全体の46%よりポイントが高い結果となった。これらの理由としては、近隣住民の中には複数回の来場や長時間滞在が多かったためではないかと推測される。(図12)

4.3. 「地域」の「良いところ」と「課題」

4.3.1. 一般的な「地域」に関する意見

ヒアリング回答者の居住地から、会場周辺地域である「香椎・千早校区の住民」と「その他の地域」居住者の二つに分けて傾向を確認する。

「その他の地域」は県外から福岡市内各所まで幅広い「地域」を含んでいる。地域住民が居住地周辺に関してどのように捉えているか、福岡市内を中心とする九州各地（一部九州外も含む）の「地域」についての一般的な所感が表現されていると考えることができる。

「その他の地域」の「良いところ」として挙げた項目数は47件、「課題」で挙げたのは

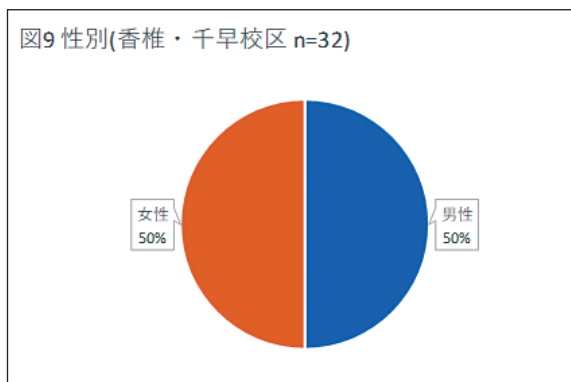


図 9

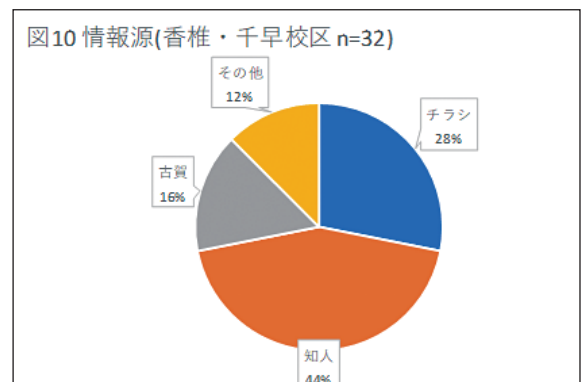


図 10

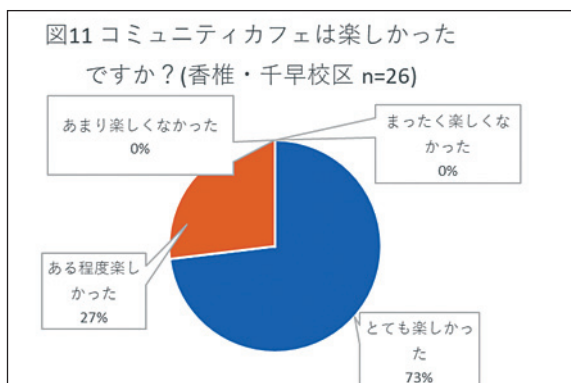


図 11

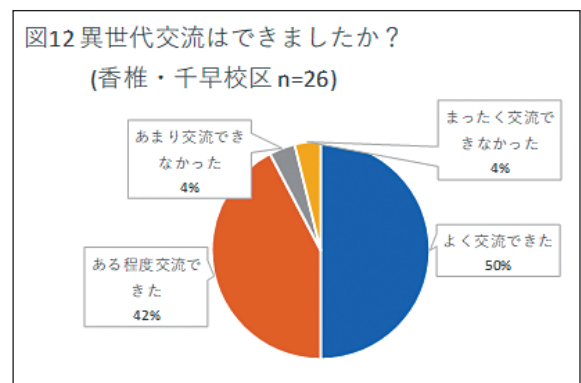


図 12

37件であった。

まず、「良いところ」については、47項目を分類すると「人」「生活」「交通」「利便性」「活気」「歴史」「自然」などに分かれた。このような条件を満たす地域が一般的に「良い地域」と認識されるものと推測できる。(表2)

次に「課題」の37件を分類すると、ほぼ「良いところ」の裏返しであり、少子高齢化による人口減少や、商店街等の衰退による買い物の不便さ、遊び場の少なさなどから「活気がない」という意見、治安の悪さ、交通の便の悪さが挙げられた。また、「地域のつながりの不足」をあげた意見も見られ、異世代交流の少なさ、孤立しがちな人がいることが指摘されている。

4.3.2. 香椎・千早校区住民の意見～「課題」は「若者が活躍する場」や「フリースペース」の不足～

一方、香椎・千早校区の住民による意見のみを集計すると、「良いところ」で挙げられた項目は40件、「課題」は32件であった。

上述の「その他の地域」と異なる特徴は、「良いところ」として「人が温かい」「地域で子どもを見守ってくれる」「人と人が近い」などの「人」に関するポジティブな意見が目立ったことであった。また、「その他の地域」では見られなかった意見としては「まちがきれい」というものもあった。交通の便がよいという点を「良いところ」で挙げた人が12人と多かったが、一方で「交通の便が良すぎて地域外に出かけてしまう」という意見もあった。

香椎・千早校区の「課題」について特徴的なのは、「若者が集まる場が少ない」「若者がチャレンジ・活躍できる場が少ない」という指摘であった。これに関連して「地価・家賃が高い」ことを「課題」として挙げる意見も多く、若者の活躍を阻む要因のひとつとなっているものと思われる。

また、異世代交流をはじめとするさまざまな交流や活動の場となる「フリースペースがない」という意見も複数見られた。

香椎・千早校区の住民でヒアリング調査回答者の年齢層は図8に示すとおり、30代、40代が半数を超えている。実際、来場者には子育て層と小さな子どもの姿が多く見られ、期間中に何度も遊びに来るリピーターもいた。コミュニティカフェ「こねくと」は期間限定ながら、子どもたちがふらっと立ち寄って遊べる場所として機能したものと思われる。学生が街を歩いた際の感想で

表2 地域の「良いところ」(一般的な意見)

分類	意見の例
「人」	人口が多い, 転入者が多い, 子どもが多い, 若者が多い
「生活」	治安が良い, 物価が安い, 食べ物がおいしい, 住みやすい
「交通」	アクセスがよい
「利便性」	コンビニがある, 店・商業施設がある, 遊ぶところがある, 保育園がある
「活気」	イベントが盛ん, 人が集まる機会が多い

も「子どもが伸び伸びと遊べる場所がまちなかに少ない」と指摘していることも付記しておきたい。

4.4. 来場者調査総括～恒常的な新しい「場」づくりを地域主体で～

ヒアリング調査の結果から、来場者はおおむねコミュニティカフェという場やそこで行われるイベント、人との交流を楽しまれたと結論づけることができる。ただし、「交流」に関しては、運営スタッフである学生との会話などから「異世代交流」が成立したと回答された可能性もある。カフェの場では、学生と地域の方の会話は非常に活発であったが、来場者同士がこの場で出会うような状況を創出することは今後の課題である。

地域に関する課題などについて、香椎・千早校区の住民の意見からは、若者が活躍できる環境や集まる場、地域における既存の「場」とは異なるフリースペースなどコミュニケーションの場・機会の創出への要望が見えてくる。このような新たな「場」をどのように創り出すか、今後検討していくことが必要である。

5. まとめ～成果と今後の検討課題～

最後に、コミュニティカフェの取り組みが地域と学生の教育、双方にとってどのような成果をもたらし、どんな検討課題を残したのかを整理したい。

5.1. 地域に対する成果～地域が求めるものの顕在化～

来場者を対象としたヒアリング調査の総括からは、周辺地域で子どもが安心して伸び伸びと遊べる場所の少なさが背景にある可能性が感じられ、今後のまちづくりの課題として指摘された。さらに、ヒアリング調査では来場者の居住地について「良いところ」と「課題と思われるところ」について尋ねたところ、香椎・千早校区の住民からは、若者が活躍できる環境や集まる場、地域における既存の「場」とは異なるフリースペースなどコミュニケーションの場・機会の創出への要望が浮かび上がった。

これらの指摘は11/30（土）の「木藤亮太氏講演会&意見交換会」の場でも提示されていた。この催しの参加者は、会場がある「みゆき通り商店街」の関係者、香椎校区の住民（特に青少年団体関係者）が中心であり、意見交換会では「商店街の問題は商店街関係者の集まりで、地域の問題は地域住民の集まりで議論してきたが、こんな風にいろいろな人が集まって意見を交わす場はこれまでなかった」という声が聴かれた。また、「子どもたちの勉強に使えるフリースペースがほしい」という子育て中の女性の意見に、地域で開園する保育園園長から「保育時間外に施設を提供できるかもしれない」という声があがった。このような展開は、さまざまな人が集まって話をする場の醍醐味であり、コミュニティカフェ（コミュニティスペース）の機能が発揮された瞬間であったと思われる。

今回のコミュニティカフェ、あるいは大学に対して、そのような「場」づくりの役割を果たすことを期待する声も寄せられたが、学生主体の取り組みは活動期間や資金などに限界があり、こうした要望に十分に、そしてすぐに応えることは困難である。恒常的な「場」づくりは地域主体での取り組みが求められる。

しかしながらコミュニティカフェの活動により、地域に求められるものを顕在化させることができたのは一定の成果であるといえよう。

以上を踏まえてコミュニティカフェの取り組みによって地域にもたらされた成果と課題を整理すると以下のとおりである。

《成果》

- ・公民館等で実施されているカフェ等にはあまり参加しない子育て層（30代、40代）に多く参加していただけた。
- ・子育て層を含め、地域住民や商店街関係者など、さまざまな方の交流の場を（一時的にはあるが）創出できた。
- ・フリースペースなど新たな「場」づくりへのニーズを顕在化させることができた。

《課題》

- ・イベント時以外のカフェ運営のなかで、来場者同士の交流を促すことは十分にできなかった。
- ・浮かび上がったニーズに対応する恒常的な「場」づくりをすぐに実現することは難しい。

5.2. 学生に対する教育効果

地域に支えられ地域に飛び出して学修する試みであったコミュニティカフェは、学生の教育面でどのような効果と課題があったのか。この点を明らかにするため、後期授業終了前に、学生にアンケート調査を行った。その結果をとりまとめると以下のとおりである。

●企画から運営までを経験して、重要だと思う点を後輩に伝えるとしたら

(全体)

- ・他の班と連携をとること。
- ・締め切りを意識してスケジュールを逆算して考えること。進行管理、計画性は大切。
- ・想定外のことが起こることも織り込んで、いくつかのプランを考えておくこと。
- ・グループでの活動は、全員で同じことをするだけでなく必要に応じて役割分担したほうが良い。

(イベント班)

- ・イベント企画案は早めに立てること（ほかの班の仕事に影響する）。
- ・おもちゃの用意はもう少し幅広い年齢層に対応できればよかった。
- ・今回来場しなかった層（例：高校生）を増やすイベント（例：進学をテーマにした大学生と

の交流会) もあればよかった。

(広報班)

- ・ 広報の対象を設定するときに判断を誤り抜け落ちた年齢層があったかもしれない。
- ・ イベントチラシは人が多く集まる場所（駅、スーパーなど）へも配置したほうが良い。
- ・ 会場入り口の看板は制作したが、会場付近の道行く人にも目をとめてもらえる発信の工夫が必要。

(店舗班)

- ・ 訪れた地域の方同士の交流ができていなかった。席のレイアウトなども要検討。
- ・ 飲食物を多く購入しすぎた（見込みを立てるのは難しい）。
- ・ 軽食を出すことでもっと集客できたのではないか。
- ・ もっといい店の雰囲気を出すために飾りつけの工夫ができたのではないか。

●コミュニティカフェの経験から学んだこと

(コミュニケーション)

- ・ 接客業のアルバイトの経験が活かされた。
- ・ 知らない人とのコミュニケーションの難しさ。
- ・ 小学生や高齢者など、異世代との交流ができた。半面、世代による接し方の違いなどが難しく感じた。会話の切り口が重要。
- ・ 学外の方との調整、メールのやり取りを経験できた。
- ・ 学外のさまざまな機関等に（電話で）連絡した際、広報をお願いしたいという用件であっても活動趣旨など最初から説明する必要がある、また話す内容の長さ、スピードも意識しなくてはならない。会ったことのない人への電話は、話し方のテクニックが必要。

(地域との交流)

- ・ 地域住民と直接接して生の声を聴き、地域の実情や課題を知ることができた。
- ・ 地域の方が大学生に何をしてほしいと思っているのかを知ることができた。

(難しいこと・大切なこと)

- ・ 企画を一から考えることの難しさ。
- ・ リーダーシップをとり人を動かすことの難しさ。
- ・ 集客のための広報の難しさ。
- ・ 報連相（他の班との情報共有）の大切さ。
- ・ 打合せを何度していてもアクシデントは起きる。問題の乗り切り方を学んだ。

学生のアンケートに記入された内容からは、初めての経験であれば当然感じるだろう難しさを十分に味わったことが窺える。小さな失敗や反省を積み重ねる1年であったと思われる。

指導教員としては、コミュニティカフェの取り組みにより、社会人基礎力²の3つの能力・12の能力要素のなかで、「前に踏み出す力」のうち特に「主体性」を、「考え抜く力」のうち「課題発見力」「計画力」を、「チームで働く力」のうち「傾聴力」を身につける機会となるよう心掛けた。イベントの企画運営のみならず、前期のコミュニティカフェ調査及び地域課題調査、後期の来場者ヒアリング等を通じ、18名の学生それぞれに上述の力を身につけさせるよう心を砕いたつもりである。反省点は、地域団体の協力を得るため学生には見えない水面下の協議に時間とエネルギーを割いたことが一因となり、自身に余裕がなくなり、学生に楽しく活動させる雰囲気を用意できなかった。このことが心残りである。

なお、11/17（日）に実施したワークショップ「理想の街の絵を描こう」は西日本新聞の取材を受け記事として掲載された。また、学生代表が大学広報の取材を受け、大学のホームページや広報誌に記事が掲載されたことも、「成果」として報告しておきたい。

あらためて、ご協力いただいた多くの関係者の皆様に御礼を申し上げて小稿を閉じる。

² 「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱した。
経済産業省公式HP参照。<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>